

## 平成23年度 第2回 歯科保健検討委員会 議事要旨

日 時:平成24年2月9日(木) 午後2時00分～午後4時00分

場 所:奈良県中小企業会館 4階 中会議室A

出席者:(委員) 桐田忠昭、辻井毅、友岡俊夫、中北淳一、松尾由佳、松田仁、森村芳美

(オブザーバー) 前田努(代 久保田幸治)

(関係課・機関) 障害福祉課、長寿社会課、保険指導課、こども家庭課、地域医療連携課、保健体育課、郡山保健所

(事務局) 橋本安弘、大原賢了、他

概 要:

### 1 <議題1> (仮称)奈良県歯科保健計画について

以下、主な意見。

#### (1) 国と県の現状について

- 1歳6か月児のむし歯は全国よりも良くて、3歳になると全国より悪くなるのはなぜか。
  - 祖父母と同居で昔のやり方で育てていることも、むし歯の原因としてあると思う。
  - 卒乳指導が厳格にならなくなったここ数年、むし歯の多い児が増えているような印象。
  - 県内は歯科衛生士雇用の範囲が狭くて、歯科保健教育が行き届いていないのでは。
  - 歯科保健教育の充実と、母親になる前から早く情報を伝えることが必要。
- 乳幼児検診について、市町村により集団あるいは個別方式で実施されているが、医師の診療や密度等の問題、実施形態で差はみられないか。
- 県内に生まれたこどもが平等に検診を受けるためには、皆1歳6か月で受けられるべきで、1歳8か月や1歳9か月で受けるのは、少し不平等ではないか。
- 口腔粘膜疾患も診査できるような歯科検診の質の向上が必要。

#### (2) 健康づくりに関する県計画(歯科関係)の進捗状況について

- 「進行した歯周炎を有する人の割合の3割減少」については、施策として考えるべき問題。
- 歯周疾患検診について、自己負担額と受診率は関係なさそう。
- 歯周疾患検診は40歳で重症になった状態で受診しても遅く、若い時期から口の健康を意識づける取り組みが必要。
- 県歯科医師会においても、それぞれの地区歯科医師会が所轄の行政と歯科保健について共に歩むようはたらきかけているところ。
- 事業所歯科検診について、企業は法律で規制がかかるのが一番近道。

#### (3) 来年度の策定作業について

- 郡部と市部で状況が違えば、郡部の状況を反映させるためワーキングに郡部からの参画があってもよいのでは。

### 2 <議題2> 8020運動推進特別事業について

以下、主な意見。

- 事業を評価できるデータの把握にも努めていただきたい。

以上